

## 睡蓮

池松 孝子

睡蓮は、晩夏、池や沼に咲く。蓮の形に似ていて夕方には睡ねむるるように花を閉じることからその和名がつけられたという。似た花に蓮と睡蓮があるが、蓮は水面より上に花茎を伸ばして咲く。一方、睡蓮は水面上に花を浮かべるように咲く。

炎天の下に睡蓮花を閉づ

高浜 年尾

睡蓮と言えばクロードモネ。1883年、モネは絵のモチーフに行き詰っていた。ちょうどその頃、フランス、ジヴェルニーを通り掛かり、たまたま事故で停車したこの町が気に入った。すぐに土地を購入、水の庭を造った。セー又川支流の水を庭に引き込み池の造成をし、日本風の太鼓橋をかけた。これが池と睡蓮をモチーフにした連作の始まりとなった。枝垂れ柳、藤を植え、バラのアーチも完成した。

モネは同じモチーフを繰り返す習性のある作家だ。季節、時間によって推移していく光を追求していく。第一連作だけでも30点以上、第二連作に至っては200点以上だという。正確な数はともかく池と睡蓮のモチーフを繰り返し描いた。

モネの作品「睡蓮」を所有する日本の美術館は13ある。国立西洋美術館、アサヒビール大山崎山荘、大原美術館、ポーラ美術館、MOA美術館、川村記念美術館など。

大原美術館工芸館の横にはモネの庭から株分けされた睡蓮の池がある。咲かない年もあると聞くが、薄いイエロー、ピンクの優しい花を咲かせてくれる。それを楽しみに故郷を訪ねる。この美術館の創設者大原孫三郎から絵画の収集を任された画家児島虎次郎が当時、すでに有名だったモネが直接用意した睡蓮の連作の中から選択した大作「睡蓮」も楽しめる。

また、高知県北川村にジヴェルニーの庭をモデルに造られた「モネの庭」がある。クロードモネ財団から世界でただ一つ、公式に認められた奇跡の庭だ。私が訪ねた時、それが見られた人は幸せになれるといわれる「ブルービー（青い蜂）」が飛んでいるのを目にした。まさにモネが描いた庭の再現だろうと感じ入った。